

★日本語用論学会Newsletter第12号をお届けします。さる10月3日に、第23回運営委員会が開かれました。この号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。

★第6回大会ご案内

日本語用論学会第7回大会は、2004年12月11日(土)甲南女子大学・(〒658-0001兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23 (TEL078-431-0391 (代) (<http://www.konan-wu.ac.jp/>))で別紙のプログラムの要領で開催されます。

今年度は、研究発表16件とシンポジウム1件、さらに午前中にワークショップ15件が予定されています。研究発表には応募が14件ありました。詳しくは、同封のプログラムをご覧ください。

★受付について：①現会員、②新入会員、③当日会員すべて、受付表にお名前、ご所属などをお書き下さい。

- ①現会員 (会費未納者のみ4,000円)。
- ②新入会員 (会費4,000円)。
- ③当日会員 (会費:一般3,000円、学生2,000円)。

①②③の受付すべてで、『予稿集2004』(ハンドアウト集) (1,000円) をご購入下

さい。ワークショップ、研究発表、シンポジウムすべてのハンドアウトが掲載されています。したがって、これがないと会場には入れません。特に、午前中のワークショップから来られる方は10時前後の受付が一番混雑しますので、お早めにお越し下さい。受付は9時から開けております。

④懇親会 (会費4,000円)。(会場:第1学生会館3階・カフェ・ド・パリ(ドンク))

昼食は大学内の第1学生会館・「甲南そば」をご利用下さい。学会では、**お弁当は販売しません**。大学の近くには飲食店がなく、甲南山手か摂津本山あるいは阪急岡本(あるいは芦屋)まで降りていかなければなりません(帰ってくるのが大変です)。

学会では、ホテルの紹介はいたしておりませんのでご了承下さい。以下いくつかのホテルの予約サイトです。ご参考までに。

<http://www.jtb.co.jp/sp/> (JTBのホテル予約サイト) / <http://www.e-htl.com/> (e-Hotel:旅行・ビジネスに安心便利なホテル予約サイト) / <http://www2.tabitama.co.jp/index.html> (旅のたまご:旅行情報総合サイト)

<http://homepage1.nifty.com/digicon/kinki.html>

甲南女子大学へのアクセスとご案内

★新大阪→JR 大阪駅→JR 神戸線（甲南山手下車）→徒歩 10分

★新大阪→JR 大阪駅→阪急梅田→阪急神戸線（岡本下車）→徒歩 20分

★当日は土曜のため、スクールバスはありません。徒歩あるいは市バス（あまり本数がありません）になります（大学までは急な上り坂になります）。JR 甲南山手（摂津本山）・阪急岡本からタクシーでワンメーターの距離です。

★ 編集委員会から

(1) 学会誌『語用論研究』への投稿論文は、1編につき5人の査読者が審査し、次のような審査事項に基づいて5段階評価されています。

語用論の分野に合致しているか

先行研究を十分踏まえているか

論旨・記述は明確か

独創性はあるか

そして、5段階評価の基準は次のようなものです。

- 5 優（非常に優れている）
- 4 良（優れている：マイナーな修正が必要）
- 3 可（掲載は可能である：ただし、かなりの修正が必要）
- 2 不可（掲載を見合わせたい：掲載するには、相当大幅な修正が必要）
- 1 不可（掲載はできない）

査読者には投稿者の氏名は伏せられており、論文のタイトルしかわかりません。

(2) 『語用論研究』投稿規定について

従来の規定（『語用論研究』第5号参照）に次の点を加えることになりました。

1. 注は、1, 2, 3, のように、括弧をもち

いない数字だけとする。

2. 見出しのサブ・セクション番号は、1. 1. のように、数字の後にピリオドを置く。
3. セクションの「はじめに」または「序論」は、1. ではじめる。

今後ともどうぞ奮って御投稿下さい。

(3) 『語用論研究』（第6号）は現在編集中です。13編の投稿があり、3編が採用されました。ほかに、昨年の第6回大会のシンポジウムが掲載されます。第6号は会費を納入された方（新入会員、大会へ来られなかった方も含めて）に学会当日ではなく、12月中に事務局より郵送いたします。

★ 会費の振り込みについて

会費の振り込みにつきましては、大会当日の事務が大変混雑いたしますので、未納の方は同封の振替用紙で11月末までにお払い下さい。振替用紙が同封されている方は、今年度分(4,000円)が未納の方です。同封されていない方は、すでに納入済みですので結構です。また、2枚同封されている方は、2003年度と2004年度の会費が未納の方です。学会の会計をご理解の上、未納の分も併せてお払い下さい。なお、行き違いがある場合は、ご容赦下さい。会費の未納が2年以上になりますと、会員の資格を失うことになっております。

★語用論関係の新刊書紹介

大石悦子・種田知加子・揚妻祐樹 著『コントラテキスト論』高文堂出版社。

町田健編 加藤重広 著『シリーズ日本語のしくみを探る 6. 日本語語用論のしくみ』東京：研究社。

Bardovi-Harling, Kathleen & Hargford, Beberly, s. (eds.) *Interlanguage Pragmatics: Exploring Institutional Talk*. L.Erlbaum Assoc.,US.

Janoschka, Anja *Web Advertising: New Forms of Communication on the Internet*. J.Benjamins:NL.

Noveck, Ira & Sperber, Dan (eds.) *Experimental Pragmatics*. Palgrave Macmillan:GB.

☆☆朗報☆☆

本学会会長の小泉保先生が秋の叙勲で瑞宝中綬章を受賞されました。この栄誉を先生と共に喜びたいと存じます。

らないことであり、我々も自戒しておかねばなりません。また、後者は、大学に奉職されている皆さんのより一層のご努力により極力回避したい事態であります。言語研究をより発展させるためには、私たち自らが言語の研究に主体的に関与することが求められます。学会から提供されるものを受身的に享受するだけでは十分ではないでしょう。私たちも、方博士に負けないで主体的に言語研究と学会の発展に寄与したいものです。合掌。

では、第7回大会に、たくさんの方が参加していただけるよう願っております。

(広報委員長 久保進 記)

★Forum

方経民博士から学んだこと

久保 進 (松山大学)

日本中国語学会理事や現代中国語研究会責任者、同研究会編集委員を長年務められた、同僚の方経民博士が、去る9月7日に享年50歳の若さで上海の地で他界されました。私の上海師範大学での講演の通訳をしていただいた5日後のことでありました。博士は、著書10数冊、学術論文70本、毎年複数の国際学会での研究発表と、すさまじいまでの研究活動をなさってきました。また、博士は研究のみの方ではなく、大学間の国際交流や地域の国際化、留学生への支援、在学生・卒業生への教育などそのご活躍は多岐に渡っていました。その博士が常々目指され、かつ、実践されていたことは、ご自身のみならず学会の研究水準の向上でありました。そのために、学会が陥ってはならないことを私に2つ挙げられました。一つは、特定の研究者の私物になること。いま一つは大学院生の業績作りの場に終わることです。特に、前者はあってはな